

第5回栃木県次期プラン及び地方創生総合戦略策定懇談会

議 事 録

【 要 旨 】

平成27年11月20日（金）

栃木県総合政策部総合政策課

1 日 時

平成27年11月20日(金) 14時30分から16時00分まで

2 場 所

宇都宮市昭和1丁目1番38号 栃木県公館大会議室

3 出 席 者

【委員】

飯島一彦委員、五十嵐幸子委員、伊沢正吉委員、板橋信行委員、大澤慶子委員、大山知子委員、加藤潔委員、亀田清委員、川端秀明委員、菊地治子委員、北村光弘委員(代理:黒川辰美氏)、木下富美子委員、古口達也委員(代理:真瀬宏子氏)、小林雅彦委員、齋藤正委員、佐藤栄一委員、須賀英之委員、竹内明子委員、手塚貴子委員、内貴滋委員、長島公之委員、中村京子委員、藤井大介委員、堀江雅和委員、水戸美津子委員、宮下均委員、宮下陽子委員、宮島重雄委員、柳田和子委員、渡邊勇雄委員(代理:岩本克行氏)、和南城憲一委員

【県】

福田富一知事、鈴木誠一副知事、馬場竹次郎副知事、古澤利通教育長、松岡亮介警察本部長、関係部局長 外

4 議 事

(1) 知事あいさつ

本県版「まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、先月末に「とちぎ創生1^{いちご}5戦略」として策定することができた。

次期プランについても、「とちぎ元気発信プラン(仮称)」として第2次素案を取りまとめ、人口減少・超高齢社会の到来や経済のグローバル化、東日本大震災を契機とした意識の変化、東京オリンピック・パラリンピックの開催など、時代の潮流を捉えつつ、本県の強みや可能性を生かしながら、将来像として掲げた「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”」の実現に向けて、「次代を拓く人づくり戦略」を第1の柱に、5つの重点戦略と18のプロジェクトを掲げたところである。

委員の皆様には、幅広い視点から忌憚のない御意見を願います。

(2) 議 題

事務局から資料に基づき、栃木県重点戦略「とちぎ元気発信プラン(仮称)」について説明後、意見交換を行った。

－委員意見要旨－

【委員】

ブランド発信の核となる言葉は大変重要であり、誰に、何を訴えていくのかを整理してつくるべきである。「ベリー グッド ローカル とちぎ」の「ベリー」はいちごと掛けているが、これが栃木県でなくてはならないというのが見えていない気がする。

【委員】

プランの中で、「ベリー グッド ローカル とちぎ」が一番響いた。本県はいちご生産量日本一ということで、県外の人に発信する上でもわかりやすい。

また、「協働」については、互いの良さに気付くということと、これから5年間みんなでいいものをつくっていくということの、2つの内容が書かれており、非常によい。

【委員】

「とちぎブランド・デザイン」は、今までブランドのターゲットがなかった中で、初めてこういったものが出たのは素晴らしいことだと思う。ただし、成果指標の地域ブランド力（魅力度）全国順位はもっと高い目標を掲げてもらいたい。

成果指標の「地域づくり団体数」は、「地域づくり団体栃木県協議会に登録した団体数」としてあるが、組織数も含むべきではないか。

「未来を創る『とちぎ人』育成プロジェクト」の「グローバル人材の育成」には、英語教育だけでなく、国際交流の視点も追加してもらいたい。

【委員】

「ベリー グッド ローカル とちぎ」というフレーズは目を引く。地方創生においては、ローカルであることの意味付けが重要と感じている。心に響くフレーズなので、これから生かしていきたい。

【委員】

経済を含め時代の変化に対応し、必要なものや不足するものを加えていくと、さらにいいプランになると思う。

大切なことは、県民に危機感を共有してもらうことである。「とちぎの将来像の実現に向けた基本姿勢」にあるように、県民が共有し協働していかないと実効性を高めることはできない。そのため工夫や我々県民の努力が必要である。

【委員】

「ベリー グッド ローカル とちぎ」については、具体的な展開を繰り返すことにより、ブランドができあがっていくものと考ええる。

「元気」「成長」というキーワードや成長戦略に真正面に取り組むものがかなり織り込んである。県内の地域経済は稼ぐ力をつけていかなければならない。創業に取り組む人材を大事にし、若い人たちが活躍できる場をつくるなど、人材を重視する取組が具体的になってくるとよい。

【委員】

「小・中学生へのふるさと学習の推進」、「高校生が本県の伝統文化等について学ぶ機会の確保」とあるが、小さいころからの教育が地域を誇りに思うブランド力に結び付き、それがやがて観光に結び付いていくものと考ええる。

また、「複数の市町が連携して取り組む地域活性化への支援」とあるが、市町連携の文化財公開など、文化財を大切にしていくことも、観光振興につながると思う。

【委員】

「感動共有スポーツ推進プロジェクト」で多くの重点的取組を挙げている。「競技力向上のための取組推進」にある「ジュニア選手の発掘及び各年代に応じた選手の育成・強化」など、それぞれの取組を、具体的にどう実行に移していくのかが重要である。何かできることがあれば協力していきたい。

【委員】

市町との連携や役割分担を踏まえ、広域行政主体としての県の役割はますます重要になってくる。県の指導性の発揮が期待できるプランになっていると思う。

また、防災に関しては、県民自らが災害に対応しようとする「自助」が活かされる内容である。

財政が非常に厳しいため、インフラ関係についても、重点的に、役割分担を踏まえた対応が必要だと考える。

【委員】

「ソフト・ハードの両面からの防災・減災対策の推進」や「社会資本等の老朽化対策の推進」など、防災・減災の取組は、県の役割も記載してもらいたい。

また、「コンパクトな『まち』づくり」については、国の「国土グランドデザイン 2050」に「コンパクト+ネットワーク」とあるように、ネットワークをどうつくるかが重要である。道路だけではなく、様々なインフラの中でネットワークが途絶えると孤立化ということになる。県の役割とし

てどのようなネットワークに取り組んでいくのか、もう少し強調したほうがよい。

【委員】

全体的に非常にバランスのいいプランに仕上がっていると思う。
全県を挙げ災害に強い県として磨きをかけていくという点は評価できる。
オール栃木でものづくりをしていく上で、統一的なブランドがあることは非常によい。

【委員】

人口減少については、ソフト・ハード両面で、行政の力が必要である。県レベルで応援してくれるれば、人口減少を防ぐことが可能だと考える。

また、栃木県が他県からどう見えているか、他県の意見を行政だけではなく、私たち県民も大事にしなければいけないし、知る必要もあると思う。

【委員】

「とちぎの農林業成長プロジェクト」の「成長産業へ進化する農業の確立」では、大きな取組は行政や企業がバックアップしていくと思うが、志高くオンリーワンを目指す個人の取組に対しても、大いに支援するとともに、セーフティネットも考えてもらいたい。

【委員】

栃木県の特徴や強みが「とちぎブランド・デザイン」の中に生かされていていいと思う。ベリーやローカルというのはどこの土地にもある。栃木県にしかないものを、ソフトに限らず探してほしい。

【委員】

「観光立県とちぎプロジェクト」で海外からの観光誘客の強化をうたっているが、危機管理体制が重要である。栃木県が日本一安全・安心な観光地であることを前面に出すべきだと考える。

【委員】

「とちぎ地域づくりビジョン」の「小さな拠点」のイメージ図では、「旧役場庁舎を公民館に」、「スーパー撤退後の施設を集落コンビニに」、「廃校舎を保育所に」といったように既存の施設・設備を使っている。既存のものは朽ちていくと負の財産になるが、それを再生するならば、多くの財産・資源が既にあると考える。この視点を様々な取組に取り入れてもらいたい。

【委員】

「重点戦略の推進に向けて」の中に「協働に向けた環境づくり」とあるが、栃木県のいいものを生かしていくには、地域のネットワークづくりが必要と考える。

地域ブランド力の順位の目標 30 位以内は、もう少し高くてもいいのではないかと思う。また、栃木県が日本の真ん中にあり、今後東西南北に交通路が開くということを考えれば、「ベリー グッド ローカル とちぎ」にも、もっとセンター的なイメージが入ってもいいのではないか。もっと元気に栃木を発信してほしい。

【委員】

栃木県を元気にするのに最も有効なのは、子どもを元気にすることである。元気な子どもは元気な大人、元気な高齢者になり、健康寿命も延び、医療費と介護費も抑制される。「未来を創る『とちぎ人』育成プロジェクト」に、4月から始まる学校健診の運動器健診を重点的取組として加え、地域・学校・家庭・医療が共同して毎日の生活指導や対策を講じる必要がある。

【委員】

歯科医療の保健医療サービスについてプランに明記された。2025 年に向け、地域包括ケアシステムにおいて途切れない歯科医療がなされるようなシステムづくりに取り組んでいくということで、評価できる。

【委員】

ノーマライゼーションや障害者差別解消、地域において健やかに安心して暮らすことができる基盤づくりを推進するというのは、非常によいと考える。

地域包括ケアには高齢者のみでなく、障害者も対象とするべきであり、特に居住に関しては、高齢者と障害者のつながり、介護保険と障害者の福祉利用を考慮した内容にしてもらいたい。

【委員】

「安心の医療・介護確保推進プロジェクト」の成果指標「特別養護老人ホーム等の定員数」は「全国 10 位の水準を目指す」とあるが、これは大変高い水準なのでうれしく思う。

看護師や介護福祉士等は人材不足で、危機的な状況である。超高齢社会を成長産業と捉え、魅力的な仕事であるとプッシュしてもらいたい。

同プロジェクトの取組に、「サービス付き高齢者向け住宅の普及促進」とあるが、「高齢者向け住宅の普及促進」であれば、もう少し住宅の範囲が広まるのではないかと思う。

【委員】

「とちぎの産業躍進プロジェクト」に「立地環境を生かした企業誘致の推進」とあるが、ブランドイメージが上がれば、栃木県に進出して来る企業も増える。また、社員の関心が高い住環境と教育環境を整えることで、より企業誘致につながると考える。

【委員】

「感動共有スポーツ推進プロジェクト」に、競技力向上や普及とあるが、各競技団体にすべて任せるのではなく、県と競技団体の連携により、数値目標を達成してもらいたい。

【委員】

ブランドのキャッチフレーズについては、「ベリー」の語呂合わせが非常にいいと思うが、英語表記では語呂合わせにならない。英語バージョンを別に考えてもらいたい。

「立地環境を生かした企業誘致の推進」に、「東京圏との近接性」・「高速交通ネットワーク」・「地震などの大規模な自然災害リスクの少なさ」をPRするとあるが、働きやすい環境も加えてほしい。

【委員】

北関東自動車道の開通後、茨城県、群馬県との交流が活発である。「観光立県とちぎプロジェクト」に「関東近県等との広域連携によるプロモーション」とあるが、3県連携でやれることが産業振興面でいろいろあると思われるので、その点も入れてもらいたい。

【委員】

「協働」を基本姿勢として前面に打ち出し、ぜひ我々懇談会委員を巻き込んでもらいたい。

「とちぎ元気発信プラン」ということで、特に若者に対する情報発信をお願いしたい。仕事に関して、様々なところに情報はあがるが、そこにたどり着かないという現実もあるようである。県でできるものは情報の一元化を図ってほしい。

【委員】

地域住民が主役になれる場所があれば、そこに文化的で、地域住民にとって必要な場所ができる。さらに、経済的にも持続可能なものがつくれば、地域の企業がそれを補完することができる。そういうものをつくるのが、コンパクトシティをつくる上では不可欠である。ただ廃校を利用するというだけでは厳しくなると思う。

【委員】

子育てには学校・地域・家庭の三位一体の教育が大切である。「未来を創る『とちぎ人』育成プロジェクト」の重点的取組に随分網羅されている。今後5年間に少しでもこのプランが達成できるように、みんなでとちぎの子どもたちを元気な子どもたちに育てていきたい。

【委員】

「災害に強いとちぎの基盤づくりプロジェクト」の「防災・減災対策の推進」は大変重要である。災害が起こった後、被災者の方たちが、一刻も早く元の生活に戻ることができるよう、体力をきちんと温存できる安心な避難所づくりも視点に入れていただきたい。

【委員】

「未来を創る『とちぎ人』育成プロジェクト」の「きめ細かな指導」・「魅力と活力ある教育」・「グローバル人材の育成」や「感動共有スポーツ推進プロジェクト」の「スポーツを通じた人づくり」などの重点的取組を実行するには、指導者の質の向上と適切な人数の確保が重要である。青少年教育施設の整備推進のようにハード面も必要だと思うが、ソフト面として、栃木県独自の教育力アップのためにも、教員の質の向上と教員数の適正な確保をぜひ重点化してほしい。

(3) あいさつ

【須賀会長】

今日が懇談会最終回である。昨年10月より熱心に御討議いただき、「とちぎ創生15戦略」が策定され、「とちぎ元気発信プラン」も第2次素案として形になった。皆様方の御指導に深く感謝申し上げます。

今後、プランの実行段階でしっかり成果を上げていくことが大切である。重点戦略の推進に向けて、「協働による県政の推進」がうたわれている。ぜひ協働の精神でこのプランが実効あるものとなるよう、引き続き御協力をお願いしたい。

【福田栃木県知事】

5回の懇談会を通し、委員の皆様には幅広い視点や専門的な見地から多数の意見を賜った。この「とちぎ元気発信プラン」については、来年2月策定を目指し、来月にはパブリック・コメントを実施し、幅広く県民の皆様からも御意見を賜りたいと考えている。

県民の皆様はもとより、団体、企業、行政など多様な主体と協働のもとに、「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”」の実現を目指し、プランの推進に全力を傾注して参る。

委員の皆様には、より一層の御支援と御協力をお願い申し上げて、御礼の言葉とする。